

あとがき

本研修テキストは、ことばや文字を中心とした知の学びや情報の伝達だけでなく、見る、聴く、語る、触れあうという身の関係のワークショップ型研修を通して、集団のなかでの多様なコミュニケーション能力のあり方を探究したものです。ワークショップとは、ある目的のために用意された共同行動や作業の場、時間を意味し、参加する人々の主体的な発想や行動を、共同・協働によって展開する方法です。その行動を通して、多様な価値を認め合い、参加者個々に独自の行動を保障しつつ、コミュニケーションの多様なありかたを獲得する内容となっています。

ワークショップⅠ・Ⅱは、研修者と被研修者とが双方向的にプログラムを展開する内容・方法となっています。ワークショップⅢは、ファシリテーターの牧野自身も述べているように、コミュニケーション・スキルをめざすというよりも、グループによる即興的音楽表現の創作活動となっており、その内容と方法は独創的です。しかし一方で、このワークショップⅢでは、「複数の人々が集まり、音を媒体として互いに自己表現を楽しもうとするとき、そこでは、多様なコミュニケーション（言語・非言語コミュニケーション）が必然的に機能していることを実感できる。」と述べているように、コミュニケーション力向上の側面も強く保持しています。内容的にも、音楽の専門的な技術を必ずしも必要としないものであることに留意したいものです。

演劇の基礎行動では、身体の実現行動を通じたイメージの交換と共有、対話やことばの共有による双方向コミュニケーションと共同のあり方がポイントです。音楽の基礎行動では、音や音楽を生み出す身体行動の関係、生み出された音楽から他者と共鳴することによって、共感に満ちたコミュニティ（共同体）を実感していくことが重要です。

いずれにしても、どのような研修や学習場面でも、参加する側にその主体性、対話性、共感、想像・創造性、多様な発想と思考、といったことがらが生き生きと体現されてはじめてその効果を発揮するものです。本テキストはまさしくそのような方法において行われる研修の、メタ研修という性格を現しています。各種ワークショップ実践の結果として、コミュニケーション力の向上がはかれるという考え方にもとづいています。研修を主宰する講師は、教えるというスタンスではなく、支援者または援助者（ファシリテーター）というスタンスに立ち、ときには参加者を同じ位置に立たせることも可能です。

なお本テキストの作成は、独立行政法人教員研修センター「平成21年度教員研修モデルカリキュラム開発」に関する業務委託を受けて行われたものです。学校教員を対象として平成21年に沖縄県で5回にわたって実施された一連のワークショップ研修と受講者評価、及びその分析にもとづいています。

開発にあたったプロジェクト・チームは、琉球大学教育学部教員、沖縄県立総合教育センター指導主事、特別招聘講師、市町村立小・中学校教員で、その役割分担と氏名は以下の1～6のとおりです。

[役割]

1. 研修カリキュラムの開発
2. 研修実施
3. 研修観察と記録
4. 研修観察による評価 (VTR 中心)
5. 映像記録と編集
6. 研修テキスト作成と編集

[氏名]

中村透 (琉球大学教育学部・教授) 1, 2, 5, 6

津田正之 (琉球大学教育学部・准教授) 1, 2, 3, 6

玉城美智子 (沖縄県立総合教育センター指導主事) 1, 2, 3, 4, 6

根路銘孝子 (宜野湾市立志真志小学校教諭) 1, 3, 4

棚原聖子 (沖縄市立比屋根小学校教諭) 1, 3, 4

三浦敦子 (豊見城市立豊見城中学校教諭) 1, 3, 4

服部洋一 (琉球大学教育学部・准教授) 4

伊藤義徳 (琉球大学教育学部・准教授) 4

特別招聘講師

佐藤信 (元東京学芸大学教授・演出家) 2

牧野淳子 (京都市立芸術大学非常勤 (音楽学部教職課程特任) 講師) 2, 4, 6

特別研究員

古謝麻耶子 (琉球大学) 3, 5, 6

本テキストと研修に関するホームページは以下です。

<http://perfarts-edu.jp/>